

旬の話題

2023年秋に見ごろを迎える惑星解説!

天体観測をするにあたって特に注目したい天体が惑星です。惑星は星座の星と異なり毎年見ることのできるタイミングが変わります。2023年の秋にはどの惑星が見ごろを迎えるのでしょうか?

今年の秋の夜に見ごろを迎える惑星は2つあります。

1つ目は「土星」。環が特徴的な惑星です。日が沈んだ後に、東から南にかけて見えます。望遠鏡で観察すると環を観ることもできます。この土星の環は大量の氷の粒が土星の周りを公転しながら太陽の光を反射して明るく見えているものです。

2つ目は「木星」。土星から3時間ほど遅れて東の空に昇ってきます。木星は太陽系で最も大きな惑星であり、直径は地球の約11倍です。木星を望遠鏡で観察すると、赤っぽい色の大きな渦を見つけることができます。これは「大赤斑」という大きな嵐です。

この2つの惑星は他の星よりもひととき明るく輝きます。ぜひ自分の目で観察してみましょう!



観望会のご案内

札幌市天文台

【住所】札幌市中央区中島公園1-17 (コンサートホールKitaraと豊平館の間)
【休台日】月曜日、火曜日午後、祝日の翌日【お問い合わせ】☎011-511-9624 (札幌市天文台)

★昼間公開

日程
火曜日 10:00~12:00
水曜日~日曜日 ①10:00~12:00
②14:00~16:00

観望対象
太陽、昼間に見える星



▲札幌市天文台では口径20cmの屈折望遠鏡で星を観望することができます。

★夜間公開 ※事前予約が必要です。

9月の日程
①9月8日(金)~10日(日)
②9月15日(金)~17日(日)
③9月28日(木)~30日(土)
20:00~22:00 (受け付け8月15日9:00~)

9月29日は
中秋の名月!

観望対象
①土星、夏から秋の星座の星
②土星、秋の星座の星
③月、土星、秋の星座の星

10月の日程
①10月6日(金)~8日(日)
②10月13日(金)~15日(日)
19:00~21:00 (受け付け9月15日9:00~)

観望対象
土星、秋の星座の星

11月の日程
①11月3日(金)~5日(日)
②11月10日(金)~12日(日)
③11月24日(金)~26日(日)
18:00~20:00 (受け付け10月15日9:00~)

観望対象
①・②木星、土星、秋から冬の星座の星
③月、木星、土星、秋から冬の星座の星

ご予約方法
○電話予約
札幌市青少年科学館
TEL.011-892-5004
(9:00~17:00、月曜日除く)
○web予約
電子チケットサービス「teket」
<https://teket.jp/g/b1urq6v0I2>



▲teket内
科学館ページ

札幌市青少年科学館天文情報リーフレット

星空散歩

HOSHIZORASAMPO

2023年
秋号
Vol.107

今回の表紙写真は オーロラ鑑賞特等席

15年ぶり6度目のオーロラの旅で、飛行機の窓から撮影。オーロラの活動が活発という情報を得て、急きょ窓側の席に座席変更していただき撮影することができました。

撮影者：札幌市天文台 横山明日香 撮影日：2023年3月24日15時15分
撮影地：シアトル~フェアバンクス (アメリカ) 上空
データ：SONY α7s III / OLYMPUS M.ZUIKO DIGITAL ED 8mm
F1.8 Fisheye PRO 改造 F1.8 ISO80 シャッタースピード0.3秒

表紙の写真募集中!

あなたの写真が表紙になるかも!

詳しくは...
札幌市青少年科学館 星空散歩



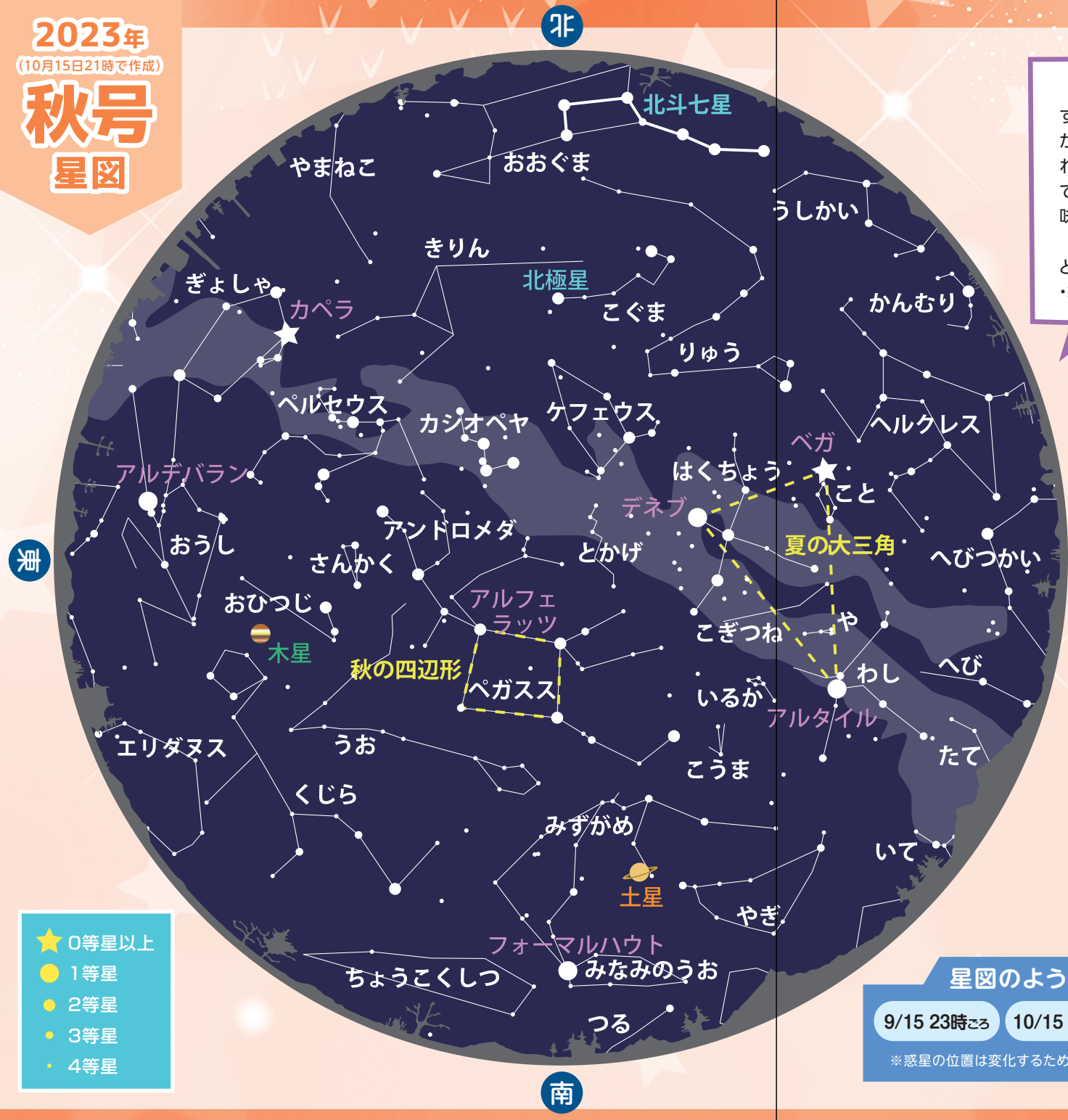
— 科学の今と未来をつなぐ —
札幌市青少年科学館
Sapporo Science Center
(札幌市青少年科学館 指定管理者 公益財団法人 札幌市生涯学習振興財団)



【休館中仮事務所】〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10 (ちえりあ内)
【TEL】011-892-5001 【FAX】011-894-5445 【ホームページ】<https://www.ssc.slp.or.jp/>

長期休館のお知らせ

展示物大規模リニューアル・施設の長寿命化等のための改修工事に伴い、2022年8月22日より休館しています。(〜2024年3月末予定)



秋になると、日没が日々早くなっていくことを実感します。暗くなるのが早いので、その分星も早く見つけることができます。まずは秋の四辺形を見つけてみましょう。これは空を駆ける天馬、ペガスス座の胴体です。この四辺形でもっとも明るいアルフェラッツは「馬のおへそ」という意味の名前なのですが、アンドロメダ座の頭にあたります。秋は明るい星が少ないのですが、秋の夜長を星空とともにゆっくりと過ごしてみたいはいかがでしょうか。土星・木星も見ごろを迎えています。

星図の使い方



- ①星図は空にかかげて使います。
- ②空にかかげたら、自分の向いている方角と星図の方角とを合わせて星を探しましょう。

南を向いている場合

東を向いている場合

北を向いている場合

西を向いている場合

星図のように見える時刻

9/15 23時ごろ	10/15 21時ごろ	11/15 19時ごろ
------------	-------------	-------------

※惑星の位置は変化するため、10/15の位置を示しています。

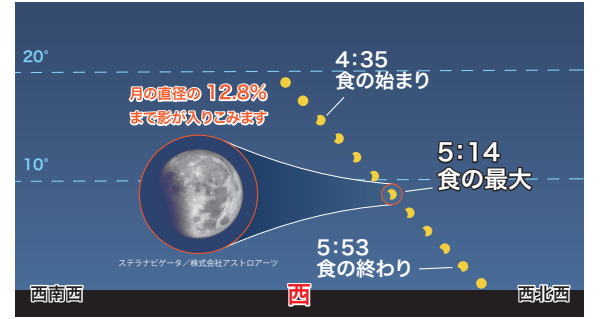
月のかたち

● 満月	9/29、10/29、11/27
◐ 下弦	9/7、10/6、11/5
● 新月	9/15、10/15、11/13
◑ 上弦	9/23、10/22、11/20

星を見よう!

部分月食

10月29日に部分月食が起こります。開始時刻は4時35分、食の最大は5時14分、終了は5時53分です。沈みながらの月食なので、西の空に注目しましょう。地球の影



がかかるとは最大で月の直径の12.8%までなので、月食としては控えめな欠け方ですね。朝の早い時間ですが、早起きをして観察にチャレンジしてみましょう!月よりも少し高いところには、明るい木星も見つかりますよ。

星座のおはなし

ペガスス座のおはなし

ペガススといえば背中に羽の生えた白馬が思い浮かびますね。空をかける天馬として圧倒的な人気を誇り、秋の四辺形の星のうち3つを占めているのがペガスス座です。

実はこのペガスス、母は蛇の髪の毛を持つメドゥーサ、父は海の神ポセイドンと、怪物と神を親に持つなんと風変わりな生い立ちをしています。また、ペガススの下半身は描かれておらず、他の動物の下半身であるという説もあります。異色カップルの両親のロマンスと合わせて気になるところですね。



みつけかた

秋の星座めぐりの拠点となる秋の四辺形は、南の空を首いっばいに見上げると簡単に見つかるはず。有名な北斗七星がもっとも低くなるころ、秋の四辺形はもっとも高くなるころ。

- 9月…南東の空21時ごろ
- 10月…南の空21時ごろ
- 11月…南西の空21時ごろ